



# 本当の安全性って？

快適な家をつくるためのキーワードとして「高気密の家」、「シックハウスにならない家」といった言葉をよく耳にするのではないのでしょうか。

「高気密」、「シックハウス」には密接な関係があります。

近年住宅は、技術が発達して「高気密」が可能になりました。しかし、技術の進化は早くて簡単に施工できる新建材を生み、新建材は化学物質を使用することで実現可能となったのです。日本では化学物質に対する規制が遅れているので、すでにカナダをはじめとする諸外国では制限されている化学物質も、いまだに使用されています。☆☆☆☆(フォースター)のマークは、健康建材の象徴のように思われていますが、低ホルムアルデヒド・低クロルピリポスというだけで、全くそれらの物質が含まれていないという訳ではないのです。また、家に使われる3000種類とも言われるその他の化学物質は、野放しなのです。新建材でつくられた高気密な室内は徐々に化学物質が充満し、その中で生活する人間は化学物質を吸い込んでしまいます。影響を受けやすい人は「化学物質過敏症」や「シックハウス」になってしまうかも知れません・・・。

★安全な素材と工法で、この悪循環から脱出しましょう。

## 中気密・高断熱



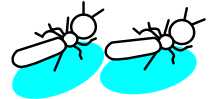
最近の住宅は、どのメーカーのものも高気密・高断熱です。今どきあたりまえとも言えます。「中気密・高断熱」のホームメイドは、『高気密にできないのね』と言われてしまいそうですが、そういうわけではないんですよ。

「高気密」とは、例えば窓と構造体の隙間や、壁と天井のつなぎ目の隙間がしっかりと密閉されていることを指しますが、ホームメイドの「中気密」は室内の壁はドライウォールの施工過程で全面が天然石膏のパテで覆われますので、隙間を満たすという意味では気密は「高い」といえます(ドライウォールの詳しい説明は『健康について』の資料に掲載しています)。

じゃあ、どうして「中気密」なんて？

ホームメイドは断熱材にセルロースを使い、壁をドライウォールで仕上げます。そのコンビネーションの場合、壁自体にミクロの穴が開いていて常に湿気の流通がある＝壁自体が呼吸している、ということになります。

ホームメイドが採用する工法には、意味があります。複合的に考えてこそ、その性能を最大限に引き出すのです。「中気密」は天然素材であるセルロースなしでは実現できません。また、せっかく断熱材にセルロースを使っても、室内の壁にビニールクロスを貼っては室内の湿気が通過できません。そこで、ドライウォールと安全なカナダ製水性ペイントで壁を仕上げることが、最も理想的なのです。



ホームメイドは、シロアリ対策にも薬剤を使用していません。

土台にシロアリのいやがるヒノキの芯持ち材を使ったり、床下をベタ基礎にしてシロアリの侵入を阻止したり、床下の大幅な通気性を確保する基礎パッキンを採用したりして、薬剤に頼らない家づくりをしています。



古紙 100%のリサイクルセルロース  
有害な物質を含んでいないので、  
手で触っても安心です

### セルロース断熱材の特長

セルロースの原料は木の繊維ですので、木と同じ性質を持ちます。木は呼吸をし、調湿効果があります。空気中に湿気が多いときは湿気を吸収し、逆に乾燥しているときは水気を発散してくれるのです(校倉造をイメージしてみてください)。セルロースは、室内を快適な湿度＝60%前後に保ってくれます。吸放湿性が高いということは、セルロース自身が湿気を循環させているので、壁体内結露を起こすことはありません。



手づくり輸入住宅の **HOMEMADE**

〒470-0135 日進市岩崎台 4-905

TEL: 0561-75-4087 FAX: 0561-75-4088

URL: <http://www.homemade-co.com>

E-mail: [info@homemade-co.com](mailto:info@homemade-co.com)